

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成 22年 3月 24日

## 【評価実施概要】

事業所番号	0170501571		
法人名	有限会社 アムケア		
事業所名	グループホーム まどべ		
所在地	札幌市厚別区厚別中央1条3丁目4-16 (電話) 011-896-5142		
評価機関名	株式会社 サンシャイン		
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F		
訪問調査日	平成22年3月22日	評価確定日	平成22年4月7日

【情報提供票より】(平成 22年 3月 4日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成)14年 6月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤 6 人、	非常勤 3人、 常勤換算 7.8人

### (2) 建物概要

建物構造	木造 造り	
	2 階建ての	1~2 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	58,000~60,000 円	その他の経費(月額)	光熱水費:15,000円 暖房費:10,000円(11~3月) 管理費:5,000円	
敷金	有( 円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(100,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	400 円	昼食	400 円
	夕食	400 円	おやつ	150 円
	または1日当たり		円	

### (4) 利用者の概要(3月 4日現在)

利用者人数	9 名	男性	2 名	女性	7 名
要介護 1	0 名	要介護 2	3 名		
要介護 3	2 名	要介護 4	2 名		
要介護 5	2 名	要支援 2	0 名		
年齢	平均 87.1 歳	最低	74 歳	最高	102 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	ひばりが丘病院、札幌こぶしクリニック、ひばりが丘歯科
---------	----------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

札幌市内の地下鉄駅から至近の住宅地にある2階建て1ユニットのグループホームである。建物は清潔で、各居室は9~10畳と広く、トイレや風呂、エレベータなどバリアフリーが整っている。サービス記録や業務日誌などの書式が工夫されており、書式に沿って適切な記録がなされ、介護計画に反映されている。地域との関係が良く、運営推進会議や避難訓練への地域住民の参加、ボランティアの方や小中学生の来訪など、交流も活発である。また、冬でも散歩や日光浴などの外出支援を積極的に行なっている。社内研修を充実し、職員は長く安定して勤務しており、利用者の安心につながっている。職員は理念を理解して利用者により丁寧と優しく接し、利用者は笑顔で穏やかに過ごしている。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前年の外部評価の「取り組みを期待したい項目」については、夜間想定避難訓練の実施、栄養士による献立の確認などの項目に具体的に取り組んでいる。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は全職員に評価表を配布し、それぞれが記入したものを代表者が取りまとめ、職員間で読み合わせている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議は、地域包括支援センターや福祉のまち推進センター職員、町内会役員、民生委員、家族などの参加を得て、時には避難訓練やもみじ祭りなどとも同時に開催している。議事録も整備しているが、昨年は合計3回の開催にとどまっているので、会議の日程やテーマの設定を工夫することによって計画的な開催を図るとともに、開催回数の確保を期待したい。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	家族と良好な関係を築き、来訪時に直接意見を聞いている。また、運営推進会議に参加する家族にも意見を聞き運営に反映している。玄関には意見箱を設置しており、重要事項説明書に事業所以外の複数の外部苦情申立機関を明示している。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	散歩時のあいさつその他、町内会に加入し、総会や納涼祭り、雪かきなどに参加している。事業所のもみじ祭りにも地域の方が参加している。小学生や中学生の職業体験での訪問を受けたり、茶道や陶芸、大正琴などのボランティアの方が事業所を訪問してくれている。

## 2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	一昨年の外部評価を受けて全職員で話し合い、理念の中に「地域の一員として生き生きと」という文言を加えており、地域密着型サービスとしての理念としている。事業の目的の中でも「家庭的な環境と地域住民との交流の下で」と示している。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を事業所の居間、事務室、2階ホールなど見やすい箇所に掲示している。理念は覚えやすい言葉で作られており、職員間で申し送り時に理念を確認したり、業務で迷った時に理念に立ち返っている。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	散歩時のあいさつその他、町内会に加入し、総会や納涼祭り、雪かきなどに参加している。事業所のもみじ祭りにも地域の方が参加している。小学生や中学生の職業体験での訪問を受けたり、茶道や陶芸、大正琴などのボランティアの方が事業所を訪問している。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は全職員に評価表を配布し、それぞれが記入したものを代表者が取りまとめ、職員間で読み合わせている。前年の外部評価の「取り組みを期待したい項目」についても、夜間想定避難訓練の実施、栄養士による献立の確認などの項目に具体的に取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議は、地域包括支援センターや福祉のまち推進センター職員、町内会役員、民生委員、家族などの参加を得て、時には避難訓練やもみじ祭りなどの行事も同時に開催している。議事録も整備しているが、昨年は合計3回の開催にとどまっている。</p>		<p>運営推進会議の日程やテーマの設定を工夫することによって計画的な開催を図るとともに、開催回数の確保を期待したい。</p>
6	9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>地域包括支援センターや福祉のまち推進センターの職員が運営推進会議に参加し、情報を提供してもらっている。市の担当者にスプリンクラーの件など必要な事項を相談している。また、代表者が認知症サポーター養成担当として地域での啓蒙活動を行なっている。</p>		
<p><b>4. 理念を実践するための体制</b></p>					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>家族の来訪時に利用者の状況を報告したり、利用者ごとの手書きのお便りを毎月作成して家族に送付しており、金銭出納報告も適切に行なっている。一方、事業所全体の動きや職員の入所・交代などをお知らせするような「お便り」という点では情報が十分とはいえない。</p>		<p>現在のお便りに加えて、事業所全体の動きが分かる広報誌的なお便りを作成したり、その中で職員の動きについても紹介するよう、情報内容の充実を期待したい。</p>
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族と良好な関係を築き、来訪時に直接意見を聞いている。また、運営推進会議に参加する家族にも意見を聞き運営に反映している。玄関には意見箱を設置しており、重要事項説明書に事業所以外の複数の外部苦情申立機関を明示している。</p>		
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>ここ数年は長く勤務している職員の離職や異動はなく、新しい職員が入る場合は十分な見習い期間を設け、利用者のダメージを防いでいる。職員が辞める場合は利用者にあいさつしているが、ダメージは見られ(てい)ない。職員の離職が最小限になるよう採用面接を慎重に行ない、採用後の相談も行なっている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>法人で内部研修の年間計画を立て全員参加で計画的に研修を行っており、内容も充実している。外部研修にもできるだけ多くの職員を参加させており、各職員が年に2回程度外部研修に参加している。研修参加後はカンファレンスの際に報告会が行なわれている。</p>		
11	20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>管理者や職員はグループホーム管理者連絡会や連絡会のスタッフ研修に参加しており、同業者と交流する機会を持ち、意見や情報を交換している。また、当事業所では他のグループホーム職員の訪問を受けているが、ここ1年は当事業所の職員が他のグループホームを訪問する機会は設けられていない。</p>		<p>職員より他のグループホームの見学希望も出ており、訪問見学の機会が設定できるよう取り組みを期待したい。</p>
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>本人が利用開始前にホームを見学に来た時は、お茶や歌の時間を他の利用者と一緒に過ごして馴染んでもらい、納得した上で利用を決めている。利用開始後は本人とゆっくり話す時間を設けたり、他の利用者との関係を取り持つなどして早く馴染んでもらうよう努めている。</p>		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>職員は利用者から昔の知恵や人間関係のあり方などを教えてもらうことがある。また入浴介助の際に感謝の言葉を掛けてもらったり、散歩時や美味しいものを食べた時に一緒に喜んでいる。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>思いや意向を言葉で表わすのが困難な利用者でも表情や仕草の傾向を職員間で共有し、希望を把握している。また、利用開始時にセンター方式によるアセスメントシートを作成し、利用者の生活歴や嗜好などの情報も把握して介護計画に反映している。</p>		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>利用開始時のアセスメントに基づき、担当職員と計画作成責任者が中心となり、家族や職員の意見も参考に介護計画を作成している。介護計画は家族に説明し、署名を受けている。一方、日々の介護記録は最新の介護計画を参照しながらプランの実践内容を記録している。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>介護計画は3ヶ月ごとに見直されており、入院など身体状況の変化があればその都度の見直しも行なわれている。担当者が作成する「24時間アセスメントまとめシート」の内容を基に介護計画見直しのカンファレンスを行ない、次の期間の介護計画のテーマを設定している。</p>		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>化粧品など日常的な買い物に一緒に行ったり、理美容の送迎を行なっている。冬場は訪問の理美容も利用している。マッサージやリンパマッサージの訪問サービスを受けたり、利用者が個人的に読みたい新聞を個別に取っている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携医療機関の内科と精神科の往診をそれぞれ月1回受けている。歯科や皮膚科も必要に応じて往診が受けられる。また利用者や家族の希望に応じて個別の通院支援も行なっている。受診結果については業務日誌に記録し、電話などで家族に報告している。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合も事業所が最大限できる範囲で対応する方針としており、利用開始時に医療関係者も交えて家族に方針を説明し、「重度化した場合の対応に係る指針」を取り交わしている。		
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1) 一人ひとりの尊重</b>					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報取り扱いをしていない	個々のプライバシーに配慮した声掛けや対応が行なわれている。個人の記録や書類は職員事務所に安全に保管・管理しており、介護記録も共用スペースで注意して記録している。来客受付簿は作成せず職員が来訪者名を業務日誌に記入している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	事業所の大まかな1日の流れはあるが、起床時間は利用者ごとに異なり、散歩やレクリエーションの参加も無理強いせず、本人のその日の気分に合わせている。食事のスピードやお風呂の長さも本人のペースを大切にしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理や盛り付け、下膳、食器洗いなどを利用者を手伝ってもらいながら行なっている。また、庭で取れる野菜を食事に取り入れている。食事の際は、利用者と職員が楽しく会話しながら同じ食事を摂っている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	日曜日以外は毎日入浴することができ、各利用者が週2回程度の入浴を行なっている。日曜日は全員が足浴を行なっている。利用者の安心に配慮し同性介助としたり、シャワーチェアを導入している。入浴の長さも利用者の希望に合わせている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	鈴虫の世話や庭の冬囲い、台所仕事の手伝い、来客者へのお茶出しなど利用者が個々の能力に応じて役割を持っている。縫い物や生け花などの趣味を継続したり、毎日、体操やレクリエーションを楽しんでいる。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	夏場はもちろんであるが、冬場でも毎日のように散歩したり、買い物に出かけている。車椅子の方も職員が介助して外出している。行事を企画し、利用者全員で花見やさくらんぼ狩り、和食レストランへの外出などに出かけている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかける弊害を理解し、日中は玄関の鍵をかけていない。玄関ドアに鈴を付け外出が分かるようにしている。また利用者の外出がある場合は見守って同行するようにしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の避難訓練を実施しており、内1回は夜間想定訓練を行なっている。避難訓練に地域の方の参加も得ており、隣宅には災害時の協力を依頼している。また、職員の救急救命訓練も定期的に受講している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日々の記録に食事や水分の摂取量を記録し、個々の健康状態に応じて調整している。献立は法人の職員が作成しており、ボランティアの栄養士のチェックと報告と指導を受けているが、口頭での報告・指導にとどまり、内容を書面で残してはいない。		栄養士等の報告や指導内容を基に献立作成者と調理担当者が共通認識を持ってカロリーや栄養バランスの管理に取り組めるよう、情報の共有化を期待したい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間には行事などでの利用者や職員の写真、風景画、利用者の作品などが飾られている。浴室やトイレも使いやすく設計され、追加でエレベーターも設置している。居間は日当たりが良く、明るさや温度、湿度なども調整され居心地よく快適に過ごせるようになっている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個々の居室は9～10畳と広く、利用者が自由にたんすや戸棚、テレビなど馴染みの品物を持ち込むことができ、安心して過ごせる場所となっている。壁には家族の写真やカレンダーなど利用者が自由に飾り付けをしている。		

は、重点項目。

WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。